

1 ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等の精度向上に係る検証における今後の課題及び対応

- i ロジックモデルの点検・助言の検証
 - ① ロジックモデルの点検では、全ての事業に対し同一の点検項目・基準で判定しているが、今後は分野の事情等も踏まえた点検項目の在り方も検討することが望まれる。
 - ② ロジックモデルへの個別コメントにおいては、エビデンスの定義を明確にした上で点検結果を記載することが望まれる。
 - ③ ロジックモデルの中には、抽象的な記載に止まり政策目標が不明確な事業が存在したが、今後のロジックモデルの作成に当たっては、可能な範囲で、政策立案時点で政策目標やアウトカムを設定することが望まれる。
- ii 効果検証方法等の検証
 - 効果検証の実施のためには、既存の公的統計の活用や関連自治体等との連携も必要であるため、EBPMの実践に当たっては、所管している部門と連携を取りながら情報共有に努めることが望まれる。

対応

- ① 本点検方法は、令和2年度から実施しており、点検事例が少ないことから、今後のEBPMの実践を通じて事例を収集し、分析することにより分野の事情等を踏まえた点検項目の在り方を検討する。
 - ② 今後は、ロジックモデルへの個別コメントにおいて、エビデンスの定義やレベルについても明記することとする。なお、特に効果検証に当たっては、過度に広義のエビデンスを用いることを避けるため、各局に因果推論に基づく検証方法を提示しており、今後も本取組を継続する。
 - ③ EBPMの意義をEBPM研修などを通じて各局へ周知し、可能な範囲で、政策立案時点で政策目標やアウトカムを設定するように促す。
- 現在もロジックモデルに対する「EBPMの実践における厚生労働省EBPM推進チーム事務局コメント」の作成の際には、可能な範囲で、利用可能統計に関するコメント等を記載していることから、所管している部門と連携を図りながら、今後も本取組を継続する。

2 次年度のEBPMの実践に向けた検証における今後の課題及び対応

- ア 事業のスクリーニング基準に係る検証
 - ① 重点フォローアップ事業の選定については、「政策評価によって事業の改善につながるか」といった観点についても検討する必要がある。また、政策分野に偏りが生じないよう幅広い分野から選定することについても検討する必要がある。
 - ② 効果検証対象事業の選定については会計的観点や社会的関心などを重視した選定基準も考慮することが望まれる。
- イ 予算過程での反映方法に係る検証
 - ロジックモデルは作成のみならず、その活用が課題である。
- ウ 事後の効果検証スキーム等の精度向上に係る検証
 - ① 効果検証の実施に当たっては、必要なデータの取得と人的・予算的なリソースの確保について検討する必要がある。
 - ② 必要なデータの取得について、当該データが取得できない場合は、関係者の知見も活用して問題の解決を図るため、その理由も含めて明らかにすることが重要である。
- エ その他EBPMの取組に関する全体スキームに係る検証
 - EBPMについて、政策を議論する中で、ほとんど紹介されていない現状に鑑み、証拠に基づいて政策立案を実施していることを理解してもらうため、政策部局の審議会等でEBPMの実践事業であることをアナウンスすることについて検討する必要がある。

対応

- ① 本指摘に対応するためには、EBPMの実践事業の選定基準等を見直す必要がある。そのため、令和3年度は既存の選定基準に新たに「新規事業(新規事業がない場合は既存事業)のうち概算要求額が一番大きい事業」を設定し、政策分野に偏りが生じないよう見直した。さらに、除外基準に、新たに「効果検証実施年度(令和5年度)までに終了する事業(モデル事業を除く。)」を加えた。
 - ② 効果検証対象事業については、令和2年度からご指摘の観点を踏まえて選定を行った。
- 予算過程におけるロジックモデルの活用については、会計課長説明のみならず、事務担当者レベルでの説明の場において活用していくことを、会計課と連携しながら、令和3年度のEBPMの実践依頼などで各局へ周知した。
- ① 効果検証の実施に当たっては、引き続き、民間事業者を活用し、よろず相談による各局の支援を行うとともに、効果検証対象事業を選定し、実際のデータを用いた効果検証を支援する。
 - ② 必要なデータについて取得できない場合は、その理由も含め事例を蓄積し、対応を検討する。
- 令和3年度のEBPMの実践依頼において、審議会など政策立案等プロセスにおけるコミュニケーションツールとしてロジックモデルを活用するよう各局へ周知した。